

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.144

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。「文藝」(河出書房新社)2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>



副都心線の“共同運行”は 集团的自衛権にも通じる“蛮勇”

今週の逸品



鰻と枝豆の土鍋御飯 2500円

中村憐二氏が率いるフェアグラントの旗艦店。刺身3点盛り1800円。1300円の真鯛かぶとは炭焼・煮付・酒蒸から選択。鶏せせり肉・伏見唐辛子のチャンプル1000円。豚しゃぶとバクチャーのサラダ韓国風ゴマ味噌ドレッシング1200円。酒肴も豊富。写真は総料理長の川久保紀夫氏が考案の鰻と枝豆の土鍋御飯。空間は洗練、なれど料理は平板、接客も客層もいやはやな凡店とは異なり、優れた費用対効果。個室も完備。

【並木橋なかむら】東京都渋谷区渋谷3-13-5 イブセ渋谷2F ☎03-6427-9580 (営平日18:00~25:00(LO23:30)、土日祝18:00~24:00(LO22:30) 無休 禁煙 <http://ameblo.jp/fg-nakamura/>)

illustration by Hajime Anzai

JR東日本管内で新宿、池袋に次いで19年連続3位だったJR渋谷駅の乗車人数が5位に転落と報じられました。東急東横線・メトロ副都心線の相互直通運転に伴い、渋谷での乗換客が減少した為と各媒体は「分析」しています。それって早い話が「渋谷パッシング」現象。渋谷が本拠地の東急グループは、地上2階から地下5階へとホームを移した戦略ならぬ選択が、嘗ては百貨店売上高全国1位だった東急本店を擁する渋谷の地に如何なる「効果」を齎すと

捉えているのでしょうか？新幹線が開通後、それ故に東京からの出張客が総じて日帰り化。長野市内の宿泊施設に閑古鳥が鳴き、こんな苦ではと地元経済界が困惑した、所謂「バキューム現象」の悲喜劇を想起します。遅延は日常茶飯事との「市民権」を得て久しい特急あずさ利用の松本市が逆に今も猶、食文化の街として夜も元気なのと対照的です。思えばニューヨークもバリもロンドンも、郊外からの鉄路はグラインドセントラル、リヨン、ウィク

トリア等々、個別に起点駅を構え、都心部の移動は地下鉄が担う役割分担を堅持しています。「不便だと異議申し立てする市民運動は寡聞にして存じません。無論、環状運転開始から来年で90年を迎える山手線の敷設は、日本が誇るべき「叡智」。而して日比谷線、東西線、千代田線辺りまでの直通運転も確かに、「利便性」という名の進歩でした。が、僕は訝しく思うのです。横浜高速鉄道みなとみらい21線、東京急行電鉄東横線、東武鉄道東上

線、西武鉄道有楽町線、同池袋線、更には東京地下鉄有楽町線へと軌道が繋がる副都心線の5社7路線に跨がる因数分解的「共同運行」も、これまで同様に「進歩」と呼び得るであろうかと。東北新幹線と東海道新幹線を直通運転させなかった「叡智」を今一度、我々は拳た服膺すべきなのでしょう。車両故障、人身事故、天候不順等の突発事象が生じた際、その影響の波及度合いを最小限に留める「防壁」としての決断だったのですから。「科学を信じて・技術を疑わぬ」不遜さでなく、「科学を用いて・技術を超越する」謙虚さ。それは最近の流行り言葉で形容すれば、個別的自衛権で対処する気概と哲学とも申せましよう。因みに、自国には直接の影響が何ら及ばぬ段階でも敢えて参戦する、押つ取り刀の蛮勇が集团的自衛権。換言すれば「ファイアウォール」を自ら望んでかなぐり捨てる覚悟と諦観。他路線での突発事象の影響をも進んで受け入れる副都心線の「心意気」は、その意味に於いて「同時代的」と呼び得るのかも知れません。近頃繁く通う「並木橋なかむら」は、「渋谷パッシング」の地の外れで一人、気を吐く逸軒。月替わり豊富な品書きは何れも美味。2人でも集団でも、食欲と会話の何れも弾む優美な時空です。